

3 M™ E-A-R™ フレキシブルフィット 耳栓 HA シリーズ 取扱説明書

使用目的

本製品は耳道に挿入して有害な騒音や大きな音への曝露を低減させる目的で使用します。

注意

本取扱説明書にしたがって正しく装着した場合、本製品は銃声などの衝撃音や工場騒音、車や飛行機からの騒音など、連続音と衝撃音の両方に対して有害な騒音への曝露を低減しますが、衝撃音に対しては必要な遮音性能や実際に得られている遮音性能を予測することは困難です。もし衝撃音に対して使用している最中もしくは使用後に、耳が聞こえづらいついたり、耳鳴りがしたり、聴覚に異常を感じた場合、難聴のリスクが生じていると考えられます。

認証

本製品は EN 352-2:2002 に適合し、以下のいずれかの機関で型式認証を取得し、毎年監査を受けています。

BSI Group, The Netherlands B.V. Say Building, John M. Keynesplein 9, 1066 EP Amsterdam, The Netherlands, Notified Body No. 2797

BSI Assurance UK Ltd, Kitemark Court, Davy Avenue, Knowlhill, Milton Keynes MK5 8PP, UK, Notified Body No. 0086

本製品は欧州規制 EU 2016/425 及び関連する現地法の要求事項に適合します。関連する欧州並びに現地法、および適合性評価機関 (Notified Body) は以下のサイトの適合証明書や適合宣言書でご確認いただけます。

www.3m.com/Hearing/certs

遮音性能

両手での装着の場合

試験周波数 (Hz)	125	250	500	1000	2000	4000	8000
平均遮音値 (dB)	31.0	29.9	34.1	34.7	38.3	40.4	43.5
標準偏差 (dB)	3.7	4.2	3.3	3.8	3.1	3.4	2.6
想定保護値 (dB)	27.3	25.7	30.8	30.9	35.2	37.0	40.9

SNR=35dB

想定保護値=平均遮音値-標準偏差

高域周波遮音値 H=36dB, 中域周波遮音値 M=32dB, 低域周波遮音値 L=29dB

片手での装着の場合

試験周波数 (Hz)	63	125	250	500	1000	2000	4000	8000
平均遮音値 (dB)	27.6	28.0	28.5	29.4	31.0	35.5	38.6	40.5
標準偏差 (dB)	5.6	5.3	5.5	5.0	4.5	4.8	4.1	5.6
想定保護値 (dB)	22.0	22.7	23.0	24.4	26.5	30.7	34.5	34.9

SNR=30dB

想定保護値=平均遮音値-標準偏差

高域周波遮音値 H=31dB, 中域周波遮音値 M=27dB, 低域周波遮音値 L=25dB

装着方法

装着の前に耳栓がすり減り、損傷、柄の破損などが起こっていないことを確認してください。もし損傷などが認められた場合にはその耳栓は速やかに廃棄し、新品と交換してください。

耳栓を装着する前に手を洗い、よく濯いでください。

騒音の発生している場所に入る前に耳栓を装着してください。

耳道に挿入する際に、片手でも両手でもできます。片手で装着した場合には遮音値は低く、両手を使って挿入した場合には遮音値は高くなります。詳細は遮音値の表の値を参照してください。曝露している騒音に対してどちらの方法で装着すべきか御社の安全衛生担当者と相談して装着方法を決めてください。

片手での装着

1. 柄を親指と他の指でつかんで丸まっている方の耳栓の先を耳道に挿入します。(図 1)
2. 挿入後数秒間柄を保持して動かさないようにしてください。よりしっかり挿入できるように、必要に応じて方向を変えて柄を押し込んでみてください。(図 2)
3. 耳栓の傘状の部分全体が耳道に挿入されるようにします。(図 5)

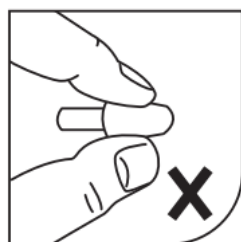
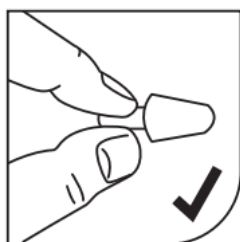


図 1

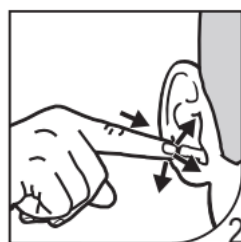
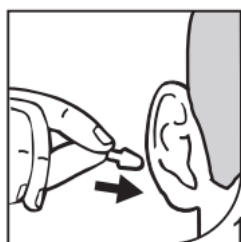


図 2

両手での装着

1. 反対側の手で耳を外側かつ上側に引っ張りながら丸まっている方の耳栓の先を耳道に挿入します。(図 3)
2. 挿入後数秒間柄を保持して動かさないようにしてください。よりしっかり挿入できるように、必要に応じて方向を変えて柄を押し込んでみてください。(図 4)
3. 耳栓の傘状の部分全体が耳道に挿入されるようにします。(図 5)

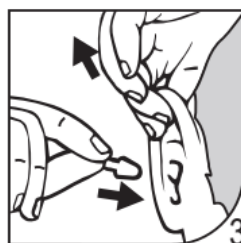


図 3

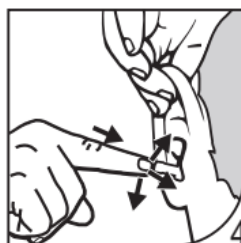


図 4



図 5



フィットチェック

耳栓を装着したら柄を優しく引っ張ってみます。耳栓が簡単に外れないことを確認してください。簡単に外れてしまうような場合には耳栓を外し、改めて装着方法にしたがって装着してください。

両耳に耳栓をした状態で安定した大きな音を聞きます。両方の耳を手でしっかり覆います。手で覆った時と覆わなかった時で音の大きさがほぼ同じであることを確認します。音の大きさが変わる場合には適正に装着できていませんので、装着しなおしてください。

もし耳栓が耳にうまくフィットしなかった場合には別の聴覚保護具をお試しく下さい。

耳栓を装着している間に時々フィットをチェックしてください。耳栓の挿入が緩んでくると実際に得られる遮音性能は著しく低下します。耳栓が緩んできた場合には装着しなおしてください。

注意: 耳道の大きさや形状は人によって異なります。両方の耳で正しく快適な状態で耳栓を装着できない場合には、御社の安全衛生担当者もしくは 3M にご相談ください。

研究により、装着方法のばらつきから製品に記載されている遮音値より実際に使用した時の遮音値

の方が低くなってしまっている例が示されています。国や地域によっては遮音値の見積もり方法が法令等で定められている場合がありますので、それに従って実際の遮音値を見積もってください。加えて3Mは聴覚保護具のフィットテストを行い、実際に得られている遮音値を見積もることを強く推奨します。

耳栓の取り外し

快適に取り外すために、耳栓を優しくひねってからゆっくり取り外してください。

注意：コード付きの耳栓の場合、コードを引っ張って耳栓を外すことはしないでください。

再利用：本製品は最初の使用時から2週間使用可能です。それ以前でも、もし損傷が認められたり、弾力や柔軟性がなくなったら速やかに新品と交換してください。

耳道の大きさの目安 (mm)：最小:7 最大:12

クリーニングおよびメンテナンス

本製品は必要に応じてぬるま湯に溶かした中性洗剤の溶液で洗うことができます。洗浄後はきれいな水ですすぎ、室温で乾燥させてください。アルコールやアセトンのような溶剤、ハンドクリーナーやラノリンを含む製品での洗浄はしないでください。乾燥の際に熱をかけることはしないでください。

保管および輸送

使用前や使用中の耳栓は、清潔で乾燥した場所で保管してください。輸送する際にはオリジナルのパッケージを使用してください。未使用でも製造から5年を経過した耳栓はご使用にならず廃棄してください。

記号の説明



最大相対湿度 (%)



温度範囲 (°C)



製造年月 (mm/yyyy)



製造者名と住所

廃棄の際には地域の条例等にしがってください。

材料

耳栓: 熱可塑性樹脂

柄: 熱可塑性樹脂

⚠ 警告

以下の点を十分に確認・実施の上ご使用ください。

- 使用目的・用途に合っていること
- 正しくフィットしていること
- 騒音に曝露されている期間はずっと装着していること
- 必要に応じて交換すること

本製品はある種の化学物質により悪影響を受けることがあります。

ひもが巻き込まれる可能性のある場所ではひも付きの製品は使用しないでください。

適切に選択し、トレーニングを行って使用し、適切に維持管理することが着用者を騒音から守るためには本質的な事項です。

取扱説明にしがわなかったり、適切な選択を行っていなかったり、騒音に曝露されている間常に耳栓を装着しないと怪我や恒久的な聴力低下を負う可能性があります。
取扱説明書をよく読んでご使用ください。取扱説明書を保管し、いつでも参照できるようにしてください。

3M、E-A-R は 3 M 社の商標です。

発売元：スリーエム ジャパン(株)
安全衛生製品事業部